

# 令和元年度固相混合噴霧導入型ICP質量分析装置 の購入に係る一般競争入札説明書

入札説明書  
入札心得式  
入札書様式  
委任状様式  
予算決算及び会計令（抜粋）  
仕様書  
入札適合条件  
契約書（案）

令和元年 9 月  
原子力規制委員会原子力規制庁  
長官官房技術基盤グループ核燃料廃棄物研究部門

# 入札説明書

原子力規制委員会原子力規制庁  
長官官房技術基盤グループ  
核燃料廃棄物研究部門

原子力規制委員会原子力規制庁の物品の調達に係る入札公告（令和元年9月6日付け公告）に基づく入札については、関係法令及び原子力規制委員会原子力規制庁入札心得に定めるもののほか下記に定めるところによる。

## 記

### 1. 競争入札に付する事項

#### (1) 件名

令和元年度固相混合噴霧導入型ICP質量分析装置の購入

#### (2) 納入期限

令和2年3月27日まで

#### (3) 納入場所

仕様書による。

#### (4) 入札方法

入札金額は、総価で行う。

なお、落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札金額とするので、入札者は消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

### 2. 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第70条の規定に該当しない者であること。

なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であつて、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。

(2) 予決令第71条の規定に該当しない者であること。

(3) 原子力規制委員会から指名停止措置が講じられている期間中の者ではないこと。

(4) 令和01・02・03年度（平成31・32・33年度）環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「物品の販売」の「A」、「B」又は「C」の等級に格付けされている者であること。

(5) 入札説明書において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約できる者であること。

### 3. 入札者に求められる義務等

この一般競争に参加を希望する者は、原子力規制委員会原子力規制庁の交付する仕様書に基づき機能証明書を作成し、機能証明書の提出期限内に提出しなければならない。また、支出負担行為担当官等から当該書類に関して説明を求められた場合は、それに応じなければならない。

なお、提出された機能証明書は原子力規制委員会原子力規制庁において審査するものとし、審査の結果、採用できると判断した証明書を提出した者のみ入札に参加できるものとする。

4. 入札説明会の日時及び場所

令和元年9月17日（火）14時30分～

原子力規制委員会原子力規制庁 六本木ファーストビル13階入札会議室

※1 参加人数は、原則1社1名とする。

※2 本会場にて、入札説明書の交付は行わない。

※3 本案件は入札説明会への参加を必須としない。

5. 機能証明書の受領期限及び提出場所

令和元年10月17日（木）12時00分

原子力規制委員会原子力規制庁 長官官房技術基盤グループ

核燃料廃棄物研究部門（六本木ファーストビル16階）

6. 入札及び開札の日時及び場所

令和元年10月30日（水）14時00分～

原子力規制委員会原子力規制庁 六本木ファーストビル13階入札会議室

※開札は入札終了後直ちに行う。

7. 競争参加者は、提出した入札書の変更及び取消しをすることができない。

8. 入札の無効

入札公告に示した競争参加資格のない者による入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。

9. 落札者の決定方法

支出負担行為担当官が採用できると判断した機能証明書を提出した入札者であって予決令第79条の規定に基づき作成された予定価格の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札額によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不適當であると認められるときは、予定価格の範囲内の価格をもって入札をした他の者のうち、最低の価格をもって入札した者を落札者とすることがある。

10. その他の事項は、原子力規制委員会原子力規制庁入札心得の定めにより実施する。

11. 入札保証金及び契約保証金 全額免除

12. 契約書の作成の要否 要

13. 契約条項 契約書（案）による。

14. 支払の条件 契約書（案）による。

15. 契約手続において使用する言語及び通貨  
日本語及び日本国通貨に限る。

16. 契約担当官等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地

支出負担行為担当官 原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 伊藤 隆行  
〒106-8450 東京都港区六本木一丁目9番9号

17. その他

(1) 競争参加者は、提出した証明書等について説明を求められた場合は、自己の責任において、速やかに書面をもって説明しなければならない。

(2) 本件に関する照会先

担当：原子力規制委員会原子力規制庁

長官官房技術基盤グループ核燃料廃棄物研究部門 高橋 宏明

電 話 : 03-5114-2225

F A X : 03-5114-2235

メールアドレス: hiroaki\_takahashi@nsr.go.jp

(別 紙)

## 原子力規制委員会原子力規制庁入札心得

### 1. 趣旨

原子力規制委員会原子力規制庁の所掌する契約（工事に係るものを除く。）に係る一般競争又は指名競争（以下「競争」という。）を行う場合において、入札者が知り、かつ遵守しなければならない事項は、法令に定めるもののほか、この心得に定めるものとする。

### 2. 入札説明書等

- (1) 入札者は、入札説明書及びこれに添付される仕様書、契約書案、その他の関係資料を熟読のうえ入札しなければならない。
- (2) 入札者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。
- (3) 入札者は、入札後、(1)の書類についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

### 3. 入札保証金及び契約保証金

環境省競争参加資格（全省庁統一資格）を保有する者の入札保証金及び契約保証金は、全額免除する。

### 4. 入札書の書式等

入札者は、様式1による入札書を提出しなければならない。

### 5. 入札金額の記載

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

### 6. 直接入札

直接入札を行う場合は、入札書を封筒に入れ、封緘のうえ入札者の氏名を表記し、公告、公示又は通知書に示した時刻までに入札箱に投入しなければならない。この場合において、入札者に求められる義務を満すことを証明する必要がある入札にあたっては、入札書とは別に証明書及び添付書類を契約担当官（会計法（昭和22年法律第35号）第29条の3第1項に規定する契約担当官等をいう。以下同じ。）に提出しなければならない。

### 7. 代理人等（代理人又は復代理人）による入札及び開札の立会い

代理人等により入札を行い又は開札に立ち会う場合は、代理人等は、様式2による委任状を持参しなければならない。

### 8. 代理人等の制限

- (1) 入札者又はその代理人等は、当該入札に係る他の入札者の代理人等を兼ねることができない。
- (2) 入札者は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号。以下「予決令」という。）第71条第1項各号の一に該当すると認められる者を競争に参加することができない期間は入札代理人とすることができない。

## 9. 条件付の入札

予決令第72条第1項に規定する一般競争に係る資格審査の申請を行った者は、競争に参加する者に必要な資格を有すると認められること又は指名競争の場合にあっては指名されることを条件に入札書を提出することができる。この場合において、当該資格審査申請書の審査が開札日までに終了しないとき又は資格を有すると認められなかったとき若しくは指名されなかったときは、当該入札書は落札の対象としない。

## 10. 入札の無効

次の各項目の一に該当する入札は、無効とする。

- ① 競争に参加する資格を有しない者による入札
- ② 指名競争入札において、指名通知を受けていない者による入札
- ③ 委任状を持参しない代理人による入札
- ④ 記名押印（外国人又は外国法人にあっては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。）を欠く入札
- ⑤ 金額を訂正した入札
- ⑥ 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- ⑦ 明らかに連合によると認められる入札
- ⑧ 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね又は2者以上の代理をした者の入札
- ⑨ 入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札にあっては、証明書が契約担当官等の審査の結果採用されなかった入札
- ⑩ 入札書の提出期限までに到着しない入札
- ⑪ 暴力団排除に関する誓約事項（別記）について、虚偽が認められた入札
- ⑫ その他入札に関する条件に違反した入札

## 11. 入札の延期等

入札参加者が相連合し又は不穩の行動をする等の場合であって、入札を公正に執行することができない状態にあると認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し若しくはとりやめることがある。

## 12. 開札の方法

- (1) 開札は、入札者又は代理人を立ち合わせて行うものとする。ただし、入札者又は代理人の立会いがない場合は、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせて行うことができる。
- (2) 入札者又は代理人は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書又は委任状を提示しなければならない。
- (3) 入札者又は代理人は、開札時刻後においては開札場に入場することはできない。
- (4) 入札者又は代理人は、契約担当官等が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。

## 13. 調査基準価格、低入札価格調査制度

- (1) 工事その他の請負契約（予定価格が1千万円を超えるものに限る。）について予決令第85条に規定する相手方となるべき者の申込みに係る価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあると認められる場合の基準は次の各号に定める契約の種類ごとに当該各号に定める額（以下「調査基準価格」という。）に満たない場合とする。
  - ① 工事の請負契約 その者の申込みに係る価格が契約ごとに10分の7から10分の9までの範囲で契約担当官等の定める割合を予定価格に乗じて得た額
  - ② 前号以外の請負契約 その者の申込みに係る価格が10分の6を予定価格に乗じて得た額

- (2) 調査基準価格に満たない価格をもって入札（以下「低入札」という。）した者は、事後の資料提出及び契約担当官等が指定した日時及び場所で開催するヒアリング等（以下「低入札価格調査」という。）に協力しなければならない。
- (3) 低入札価格調査は、入札理由、入札価格の積算内訳、手持工事の状況、履行体制、国及び地方公共団体等における契約の履行状況等について実施する。

#### 14. 落札者の決定

- (1) 有効な入札を行った者のうち、予定価格の制限内で最低の価格をもって入札した者を落札者とする。
- (2) 低入札となった場合は、一旦落札決定を留保し、低入札価格調査を実施の上、落札者を決定する。
- (3) 前項の規定による調査の結果その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札をした者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とすることがある。

#### 15. 再度入札

開札をした場合において、各人の入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、再度の入札を行う。

なお、直接入札における開札の際に、入札者又はその代理人等が立ち会わなかった場合は、再度入札を辞退したものとみなす。

#### 16. 落札者となるべき者が2者以上ある場合の落札者の決定方法

当該入札の落札者の決定方法によって落札者となるべき者が2者以上あるときは、直ちに当該者にくじを引かせ、落札者を決定するものとする。

なお、入札者又は代理人等が直接くじを引くことができないときは、入札執行事務に関係のない職員がこれに代わってくじを引き、落札者を決定するものとする。

#### 17. 落札決定の取消し

落札決定後であっても、入札に関して連合その他の事由により正当な入札でないことが判明したときは、落札決定を取消することができる。

#### 18. 契約書の提出等

- (1) 落札者は、契約担当官等から交付された契約書に記名押印（外国人又は外国法人が落札者である場合には、本人又は代表者が署名することをもって代えることができる。）し、契約書を受領した日から10日以内（期終了の日が行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条に規定する日に当たるときはこれを算入しない。）に契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等が必要と認めた場合は、この期間を延長することができる。
- (2) 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

#### 19. 契約手続において使用する言語及び通貨

契約手続において使用する言語は日本語とし、通貨は日本国通貨に限る。

(別 記)

### 暴力団排除に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、下記事項について、入札書（見積書）の提出をもって誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、官側の求めに応じ、当方の役員名簿（有価証券報告書に記載のもの（生年月日を含む。）。ただし、有価証券報告書を作成していない場合は、役職名、氏名及び生年月日の一覧表）及び登記簿謄本の写しを提出すること並びにこれらの提出書類から確認できる範囲での個人情報警察に提供することについて同意します。

### 記

1. 次のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。

(1) 契約の相手方として不適当な者

ア 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(2) 契約の相手方として不適当な行為をする者

ア 暴力的な要求行為を行う者

イ 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者

ウ 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者

エ 偽計又は威力を用いて会計課長等の業務を妨害する行為を行う者

オ その他前各号に準ずる行為を行う者

2. 暴力団関係業者を再委託又は当該業務に関して締結する全ての契約の相手方としません。

3. 再受任者等（再受任者、共同事業実施協力者及び自己、再受任者又は共同事業実施協力者が当該契約に関して締結する全ての契約の相手方をいう。）が暴力団関係業者であることが判明したときは、当該契約を解除するため必要な措置を講じます。

4. 暴力団員等による不当介入を受けた場合、又は再受任者等が暴力団員等による不当介入を受けたことを知った場合は、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うとともに、発注元の契約担当官等へ報告を行います。



# 入 札 書

令和 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

所 在 地

商 号 又 は 名 称

代表者役職・氏名

印

(復) 代理人役職・氏名

印

注) 代理人又は復代理人が入札書を持参して入札する

場合に、(復) 代理人の記名押印が必要。

このとき、代表印は不要(委任状には必要)。

下記のとおり入札します。

## 記

- 1 入札件名 : 令和元年度固相混合噴霧導入型ICP質量分析装置の購入
- 2 入札金額 : 金額 円也
- 3 契約条件 : 契約書及び仕様書その他一切貴庁の指示のとおりとする。
- 4 誓約事項 : 暴力団排除に関する誓約事項に誓約する。

# 委任状

令和 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

所在地  
(委任者) 商号又は名称  
代表者役職・氏名 印

代理人所在地  
(受任者) 所属(役職名)  
代理人氏名 印

当社 を代理人と定め下記権限を委任します。

## 記

(委任事項)

- 1 令和元年度固相混合噴霧導入型ICP質量分析装置の購入の入札に関する一切の件
- 2 1の事項に係る復代理人を選任すること。

# 委 任 状

令和 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

代理人所在地  
(委任者)商号又は名称  
所属(役職名)  
代理人氏名 印

復代理人所在地  
(受任者)所属(役職名)  
復代理人氏名 印

当社 を復代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

令和元年度固相混合噴霧導入型ICP質量分析装置の購入の入札に関する一切の件

(参 考)

## 予算決算及び会計令（抜粋）

（一般競争に参加させることができない者）

第七十条 契約担当官等は、売買、貸借、請負その他の契約につき会計法第二十九条の三第一項の競争（以下「一般競争」という。）に付するときは、特別の理由がある場合を除くほか、次の各号のいずれかに該当する者を参加させることができない。

- 一 当該契約を締結する能力を有しない者
- 二 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
- 三 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第三十二条第一項 各号に掲げる者

（一般競争に参加させないことができる者）

第七十一条 契約担当官等は、一般競争に参加しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、その者について三年以内の期間を定めて一般競争に参加させないことができる。その者を代理人、支配人その他の使用人として使用する者についても、また同様とする。

- 一 契約の履行に当たり故意に工事、製造その他の役務を粗雑に行い、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をしたとき。
  - 二 公正な競争の執行を妨げたとき又は公正な価格を害し若しくは不正の利益を得るために連合したとき。
  - 三 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げたとき。
  - 四 監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げたとき。
  - 五 正当な理由がなくて契約を履行しなかつたとき。
  - 六 契約により、契約の後に代価の額を確定する場合において、当該代価の請求を故意に虚偽の事実に基づき過大な額で行つたとき。
  - 七 この項（この号を除く。）の規定により一般競争に参加できないこととされている者を契約の締結又は契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用したとき。
- 2 契約担当官等は、前項の規定に該当する者を入札代理人として使用する者を一般競争に参加させないことができる。

## 仕様書

### 1. 件名

令和元年度固相混合噴霧導入型 ICP 質量分析装置の購入

### 2. 数量 1 式

### 3. 納入期限

令和 2 年 3 月 27 日までに納入を完了すること。

### 4. 納入場所

東京都文京区本郷 7-3-1

国立大学法人東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設

化学東館 130 号室及び 132 号室

### 5. 仕様

UV Femto 秒レーザーガルバノスキャニングアブレーションシステム、高分解能マルチコレクタ ICP 質量分析装置及び ICP 飛行時間型質量分析装置を組み合わせた固相混合噴霧導入型 ICP 質量分析装置であり、搬入、据付、配管、配線、調整等及び耐震対策一式を含む

#### 5.1 UV Femto 秒レーザーガルバノスキャニングアブレーションシステムの詳細仕様

- |                |   |
|----------------|---|
| (1) 構成         | 本体（レーザー、光学系、サンプルステージ）、<br>PC（OS：Microsoft 社製 Windows10、制御用ソフトウェア搭載） |
| (2) レーザー中心波長   | 257 nm ± 2 nm   |
| (3) レーザーパルス幅   | 800 fs 以下   |
| (4) ガルバノ走査範囲   | 最大 50 × 50 mm   |
| (5) XY ステージ移動量 | 最大 50 × 50 mm   |
| (6) サンプルサイズ    | 最大 20 × 20 mm 厚さ 5 mm<br>* 上記は標準セルのサンプルサイズ                          |
| (7) 観察用 CCD    | 130 万画素以上<br>CCD サイズ 1/2 インチ  |
| (8) 観察用レンズ     | 広角/等倍/拡大（ソフトウェアから切替え可）  |
| (9) 観察用照明      | 落射及び透過（セル内蔵）<br>：ソフトウェアから輝度制御可                                      |
| (10) サンプルセル    | 高効率フロータイプ   |
| (11) 筐体構造      | クラス 1（セーフティーインターロック機構）  |
| (12) 使用環境      | 温度：20～30°C<br>(ただし平均温度変化が 1°C/h 以下のこと。)                             |

- 湿度：20～60% RH（結露なきこと。）
- (13) 保管環境 使用環境と同じ
- (14) 装置外形寸法 本体  
 : 幅 860 × 奥行き 1212 × 高さ 774 mm  
 (突起部含まず)  
 本体用架台  
 : 約 幅 860 × 奥行き 1000 × 高さ 710 mm  
 (突起部含まず)  
 \*デスクトップ PC (ミドルタワー)、19inch (又はそれ以上) ディスプレイ及びキーボードを別途設置する。
- (15) レーザー部冷却 空冷式
- (16) 装置重量 本体：約 250 kg、本体用架台：約 50 kg
- (17) 設置に必要なスペース 最小 幅 1760 × 奥行き 1932 × 高さ 2000 mm  
 (推奨幅 3600 × 奥行き 2600 × 高さ 2500 mm 以上)
- (18) 流量調整機能 ヘリウムガス用マスフローコントローラー  
 流量：最大 2 L/min
- (19) 観察用ビデオシステム 結像レンズ：広角/等倍/拡大  
 (ソフトウェアから切替え可)  
 CCD カメラ：1280 × 1024 pixel 以上  
 最大観察視野：20 mm 以上
- (20) コンピュータ及びソフトウェア  
 OS：Microsoft 社製 Windows10  
 ソフトウェア：各種コントロール  
 各種ステータス表示  
 可視画像とレーザーパターンのオーバーレイ表示
- (21) 保護協調 インターロック 測定部扉
- (22) 保護回路 漏電ブレーカー 地絡検出電流 30 mA、  
 非常停止ボタン
- (23) 保証 検収後 12 か月

## 5.2 高分解能マルチコレクタ ICP 質量分析装置の詳細仕様

- (1) 構成 高分解能マルチコレクタ ICP 質量分析装置本体一式、  
 高感度インターフェースパッケージ 一式、  
 脱溶媒試料導入システム 一式、  
 液体試料用オートサンプラー 一式、  
 簡易型クリーンベンチ 一式
- (2) 高分解能マルチコレクタ ICP 質量分析装置
- (2)-1 測定質量範囲は 4～310 以上であること。
- (2)-2 グランド電位の大気圧 ICP イオン源を装備していること。

- (2)-3 完全コンピュータ制御の三軸制御トーチを装備していること。
- (2)-4 アルゴンガス調整用にコンピュータ制御のマスフローコントローラを装備していること。
- (2)-5 加速電圧は 10 kV であること。
- (2)-6 二重収束分析系はイオン源側に 90°扇形電場、コレクタ側に 90°扇形磁場を配置したニア-ジョンソン型であること。
- (2)-7 90°扇形磁場分析系の実効半径は 81 cm 以上であること。
- (2)-8 イオンビームの収束・拡散制御が可能なダイナミックズーム機構を装備していること。
- (2)-9 分解能調整は再現性の高い切替式とし、下記の分解能を満足すること。  
 低分解能（相対透過率 100%）時：450  
 中分解能（相対透過率 20%）時：6000  
 高分解能（相対透過率 0%）時：8000
- (2)-10 上記に加え、分解能（resolving power）10,000 以上を達成可能な高分解能オプションを装備していること。
- (2)-11 固定式ファラデーコレクタ 2 基（中央及び低質量域）・個別位置可変式ファラデーコレクタ 8 基（高質量域側 4 基及び低質量域側 4 基）を装備していること。
- (2)-12 完全コンピュータ制御で速やかに測定同位体の切替え及び位置可変式ファラデーコレクタの位置設定ができること。
- (2)-13 下記の感度及び同位体比測定精度を満足すること。  
 ・同位体比測定精度（1RSD）  
 $^{87}\text{Sr} / ^{86}\text{Sr}$ ：20 ppm 以内  
 $^{143}\text{Nd} / ^{144}\text{Nd}$ ：20 ppm 以内  
 $^{176}\text{Hf} / ^{177}\text{Hf}$ ：20 ppm 以内  
 $^{235}\text{U} / ^{238}\text{U}$ ：300 ppm 以内  
 ・感度  
 $^{88}\text{Sr}$ ：20 V/ ppm 以上  
 $^{142}\text{Nd}$ ：10 V/ ppm 以上  
 $^{178}\text{Hf}$ ：10 V/ ppm 以上  
 $^{238}\text{U}$ ：40 V/ ppm 以上
- (2)-14 マルチイオンカウンティングシステム  
 (2)-14-1 それぞれ複数の位置固定式イオンカウンティング装置と位置可変式イオンカウンティング装置、合計 5 基以上で構成されるマルチイオンカウンティングシステムを装備していること。  
 (2)-14-2 イオンカウンティング効率は 93%以上であること。  
 (2)-14-3 ダークノイズは 10 cpm 以下であること。  
 (2)-14-4 位置固定式イオンカウンティング装置のうち、中央配置（IC1）と低質量域配置（IC3）は、アバンダンス感度向上のため RPQ フィルタを装備していること。
- (2)-15 ファラデーコレクタ用アンプ

- (2)-15-1 本体アンプハウジング内に  $10^{11} \Omega$  抵抗付アンプ 8 基以上、 $10^{13} \Omega$  アンプ 2 基以上を装備していること。
- (2)-15-2  $10^{11} \Omega$  抵抗付アンプ使用時のダイナミックレンジ上限は 50 V 以上であること。
- (2)-15-3 必要に応じ差し替えて使用するため、 $10^{13} \Omega$  抵抗付アンプ 2 基以上が付属すること。
- (2)-16 データ処理部
  - (2)-16-1 コンピュータ本体は下記条件を満たすこと。  
CPU : Intel Core i5 相当以上  
RAM : 4 GB 以上  
ハードディスク容量 : 1 TB 以上
  - (2)-16-2 対角 23 インチ以上のカラー液晶モニターを有すること。
  - (2)-16-3 インクジェット式高分解能カラープリンタを有すること。
  - (2)-16-4 読出し・書込みが可能な DVD ドライブ 1 基を有すること。
  - (2)-16-5 本制御/データ処理装置の接続に占有されないフリーの USB ポートを 2 基以上有すること。
  - (2)-16-6 オペレーションシステム (OS) は Microsoft 社製 Windows10 相当以上の機能を有すること。
  - (2)-16-7 質量分析装置の自動運転が可能な制御/データ処理用ソフトウェアを搭載していること。
- (2)-17 その他
  - (2)-17-1 必要に応じ、安定した電力供給が可能な昇圧トランスが付属すること。
- (3) 高感度インターフェースパッケージ
  - (3)-1 大容量ドライインターフェースポンプ・高感度用スキマーコーン・高感度用サンプルコーンで構成されていること。
  - (3)-2 大容量ドライインターフェースポンプは下記条件を満たすこと。
    - (3)-2-1 真空排気系内にオイルを使用していないこと。
    - (3)-2-2 排気量は  $130 \text{ m}^3/\text{h}$  ( $\text{N}_2$  ガス換算) 以上であること。
- (4) 脱溶媒試料導入システム
  - (4)-1 フローコントローラはアルゴンガス用及び窒素ガス用合わせて 2 基を内蔵していること。
  - (4)-2 アルゴンガス流量は  $0 \sim 10 \text{ L}/\text{min}$  の範囲で設定可能であること。
  - (4)-3 窒素ガス流量は  $0 \sim 20 \text{ mL}/\text{min}$  の範囲で設定可能であること。
  - (4)-4 スプレーチャンバーの温度は最高  $180^\circ\text{C}$  まで設定可能であること。
  - (4)-5 脱溶媒部の温度は最高  $180^\circ\text{C}$  まで設定可能であること。
- (5) 液体試料用オートサンプラー



- (5)-1 1.5 mL 容バイアル 24 本以上がセット可能なサンプルトレイを装備していること。
- (5)-2 質量分析装置の制御ソフトウェアからコントロール可能であること。

(6) 簡易型クリーンベンチ

- (6)-1 高分解能マルチコレクタ ICP 質量分析装置の試料導入部をカバーできる形状であること。
- (6)-2 内部に試料導入系・オートサンプラー等が収納・作動可能で、内部の機器操作に支障のない程度の空間が確保できること。
- (6)-3 酸による腐食を防ぐため、クリーンベンチ内側には金属部品が露出しない構造であること。
- (6)-4 クリーンベンチ上部に配した HEPA フィルタ装備のファンから清浄な空気を供給することによりベンチ内を陽圧に保つことによって、ほこり等の進入による汚染を防ぐ構造であること。
- (6)-5 クリーンベンチ前面は巻取り式スクリーンによる遮蔽とし、必要に応じ解放できる構造であること。

### 5.3 ICP 飛行時間型質量分析装置の詳細仕様

(1) 試料導入部

- (1)-1 レーザーアブレーションによる微粒子導入に対応し、かつ、溶液試料の導入も行えること。
- (1)-2 コンピュータから回転数を制御できる溶液試料用のペリスタルティックポンプが装備されていること。
- (1)-3 ネブライザーは、ホウ珪酸ガラス製又は PFA 製のコンセントリックネブライザーであること。
- (1)-4 スプレーチャンバーは、高純度石英製又は PFA 製のバッフル付きサイクロン型であること。

(2) ICP イオン源

- (2)-1 Thermo Fisher Scientific 社製 iCAP RQ と同等又はそれ以上の性能を示すこと。
- (2)-2 トーチは三重管構造一体型の石英製であって、水平方向及び垂直方向位置は 0.02 mm 刻みで調整可能であること。
- (2)-3 高周波発信器は半導体素子を利用し、周波数 27 MHz、出力 1,600 W 程度であること。
- (2)-4 ロードコイルは、水冷式のヘリカルロードコイルであること。
- (2)-5 プラズマガス、キャリアガス及び補助ガスに用いるガスをマスフローコントローラーにより流量制御が可能であること。
- (2)-6 プラズマの状態を常時、遠隔モニタリングできる高解像度プラズマテレビジョンを有すること。

- (3) インタフェース部及びイオン光学系
- (3)-1 高マトリクス試料の導入に対応した先端が Pt 製のサンプルコーン及びスキマーコーンを備えること。
  - (3)-2 中性物質等を効果的に除去するためにイオンのみを 90°に曲げ、中性物質等を通させるイオンレンズを備えること。
  - (3)-3 スキマーの後、最初のイオンレンズの前にゲートバルブが設置されており、真空排気システムを停止することなくイオン光学系のメンテナンスが行えること。
  - (3)-4 特定質量数範囲のイオンを排除する質量フィルター（ノッチフィルター）を備え、かつ、同時に 4 種又はそれ以上の質量数範囲のイオンを排除することが可能であること。
- (4) 衝突／反応セル
- (4)-1 多原子イオン干渉を除去するために、低エネルギーイオンが質量分析計に移るのを防止するために印加される逆電圧障壁有りのヘリウムガスによる運動エネルギー弁別モード及び酸素ガス、アンモニア／ヘリウム混合ガス、水素／ヘリウム混合ガス等による反応モードを使用できる機能を有していること。
  - (4)-2 衝突／反応セル内には、衝突／反応ガスを用いない通常モードではイオンガイドとして働き、運動エネルギー弁別モードでは干渉を除去する一方、低質量数の検体イオンを効率的に透過するよう、四重極の中心軸と直交する断面中に平坦面を有する四重極電極が設けられていること。
  - (4)-3 衝突ガス及び反応ガス用のマスフローコントローラをそれぞれ備えること。
- (5) 飛行時間型質量分析装置
- (5)-1 直交加速抽出リフレクトロン型の飛行時間型質量分析計を用いたものであること。
  - (5)-2  $^{238}\text{U}$  における質量分解能（半値全幅）が  $3,000\text{ m}/\Delta m$  以上であること。
  - (5)-3 質量範囲が  $m/z\ 7\sim 280$  又はそれより広いこと。
- (6) 信号処理及びデータ収集システム
- (6)-1 イオン検出器は、Chevron 配置のマイクロチャンネルプレート検出器を用いたものであること。
  - (6)-2 最高 33 kHz 以上のデータ収集速度で同時多元素分析を行えること。
  - (6)-3 積算時間 1 秒における 6 桁以上の直線定量範囲を確保するため、信号処理はアナログ・デジタル変換方式を採用し、14 ビット以上の分解能を有するサンプリング速度 1.6 GS/s 以上のアナログ・デジタルコンバータを用いたものであること。
- (7) コンピュータ及びソフトウェア

- (7)-1 ベース動作周波数 3.4 GHz 以上、キャッシュ 8 MB 以上、かつ、4 コア以上のプロセッサ及び 16 MB 以上の RAM を搭載していること。
- (7)-2 運転用に 256 GB 以上の SSD、データ収録用に 512 GB 以上の SSD 及び 2 TB 以上の HDD を備えること。
- (7)-3 全体の運転ソフトウェア、飛行時間型質量分析計部分の運転ソフトウェア及び飛行時間型質量分析計の自動チューニングソフトウェアを備えること。
- (7)-4 任意のコンピュータで使用可能なデータ解析ソフトウェアが供給されること。

(8) 真空排気システムその他

- (8)-1 スプリットフローターボポンプによる三段差動排気システムを採用していること。
- (8)-2 ICP 質量分析装置が正常稼働する温度設定が可能である冷却水循環装置を備えること。
- (8)-3 必要が生じた場合、ユーザーが 30 分程度で質量分析計を四重極質量分析計 (Thermo Fisher Scientific 社製 iCAP RQ と同等又はそれ以上の性能) に交換可能であること。

(9) 性能

- (9)-1  $^{238}\text{U}$  における感度が 50,000 cps/ppb 以上であること。
- (9)-2  $^{238}\text{U}$  における質量精度は 5 ppm 以下であること。
- (9)-3 液体試料の  $^{140}\text{Ce}$  における酸化物イオン生成量が 2.5% 以下であること。
- (9)-4  $^{137}\text{Ba}$  における 2 価イオンの生成量が 5% 以下であること。
- (9)-5  $m/z$  220 程度におけるバックグラウンドイオン 10 cps 以下であること。
- (9)-6  $^{238}\text{U}$  における定量安定性は、10 分間で 2% 以内であること。
- (9)-7 測定される同位体比が最大 3% 以内の変動で、濃度によらず安定していること。
- (9)-8 測定の繰返し性は相対標準偏差で 0.8% 程度以内であること。

5.4 据付、保守体制等

(1) 搬入、据付、調整等

- (1)-1 本調達物品の搬入、据付、配管、配線、調整等に必要な作業等については納入業者の責により行うこと。
- (1)-2 本調達物品の据付、調整等に必要な電源、排気ダクト、空気清浄機、ガス配管及び耐震対策を設置すること。
- (1)-3 納入後、性能確認を行うものとする。

(2) 保守体制及び障害支援体制

- (2)-1 本庁職員等に対して装置の利用に係る教育を行うこと。
- (2)-2 日本国内において技術的相談に速やかに応じることができる体制が整備

されていること。

(2)-3 障害が発生した場合は速やかに障害への対応を開始できるような保守体制が採られていること。

(2)-4 検収後 1 年以内に製品上の欠陥により障害が発生した場合、障害部位の交換又は修理を無償にて行うこと。

#### 6. 検収条件

本仕様書に記載の内容を満足している機器が納入されたことをもって検収とする。

## 入札適合条件

令和元年度固相混合噴霧導入型 ICP 質量分析装置の購入を実施するに当たり、以下の条件を満たすこと。

- (1) 令和01・02・03年度（平成31・32・33年度）環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「物品の販売」の「A」、「B」又は「C」の等級に格付けされている者であること。
- (2) 仕様書に記載の仕様を満たす物品で入札に参加すること。

本件の入札に参加しようとするものは、上記の（1）及び（2）までの条件を満たすことを証明するために、様式1及び様式2の機能証明書等を原子力規制委員会原子力規制庁に提出し、原子力規制庁長官官房技術基盤グループ核燃料廃棄物研究部門が行う適合審査に合格する必要がある。

なお、機能証明書等（添付資料を含む。）は、正1部、及び副1部を提出すること。

また、機能証明書を作成するに際して質問等を行う必要がある場合には、令和元年10月15日（火）12時までに電子メール又は文書（FAXも可）で、下記の原子力規制庁長官官房技術基盤グループ核燃料廃棄物研究部門に提出すること。

提出先：

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房技術基盤グループ核燃料廃棄物研究部門

〒106-8450 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル16階

担当：高橋 宏明 (hiroaki\_takahashi@nsr.go.jp)

TEL：03-5114-2225

FAX：03-5114-2235

(様式1)

令和 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

所在地

商号又は名称

㊟

代表者氏名

㊟

「令和元年度固相混合噴霧導入型 ICP 質量分析装置の購入」の入札に関し、応札者の条件を満たしていることを証明するため、機能証明書を提出します。

なお、落札した場合は、仕様書に従い、万全を期して業務を行います。万一不測の事態が生じた場合は、原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官の指示の下、全社を挙げて直ちに対応します。

(様式2)

## 機能証明書

件名：令和元年度固相混合噴霧導入型 ICP 質量分析装置の購入

商号又は名称：

条 件	回 答 (○or×)	資料 No.
(1) 令和01・02・03年度(平成31・32・33年度)環境省競争参加資格(全省庁統一資格)「物品の販売」の「A」、「B」又は「C」の等級に格付けされている者であること。		
(2) 仕様書に記載の仕様を満たす物品で入札に参加すること。		

機能証明書に対する照会先

所在地： (郵便番号も記載のこと)

商号又は名称及び所属：

担当者名：

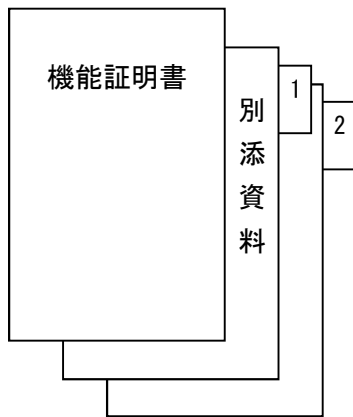
電話番号：

FAX 番号：

E-Mail：

## 記載上の注意

1. 機能証明書の様式で要求している事項については、指定された箇所に記載すること。なお、回答欄には、条件を全て満たす場合は「○」、満たさない場合は「×」を記載すること。
2. 内容を確認できる書類等を要求している場合は必ず添付した上で提出すること。なお、応札者が必要であると判断する場合については他の資料を添付することができる。
3. 機能証明書の説明として別添資料を用いる場合は、当該項目の「資料 No.」欄に資料番号を記載すること。  
その場合、提出する別添資料の該当部分をマーカー、丸囲み等により分かりやすくすること。
4. 資料は、日本語（日本語以外の資料については日本語訳を添付）、A4判（縦置き、横書き）で提出するものとし、様式はここに定めるもの以外については任意とする。
5. 機能証明書は、下図のようにまとめ提出すること。



- ①項目ごとにインデックス等を付ける。
- ②紙ファイル、クリップ等により、順序よくまとめ綴じる。



(案)  
売 買 契 約 書

支出負担行為担当官原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 名（以下「甲」という。）と、  
（以下「乙」という。）とは、下記事項に関し、別記契約心得及び特記事項により売買契約を締結する。

記

契 約 金 額	金 _____ 円 (うち消費税額及び地方消費税額 _____ 円) 上記の消費税額及び地方消費税額は、消費税法第28条第1項及び第29条並びに地方税法第72条の82及び第72条の83の規定に基づき、算出した額である。
1. 件 名	令和元年度固相混合噴霧導入型ICP質量分析装置一式の購入
2. 数 量	別添仕様書のとおり
3. 仕 様	別添仕様書のとおり
4. 納 入 期 限	令和2年3月27日
5. 納 入 場 所	別添仕様書のとおり
6. 契 約 保 証 金	全額免除

本契約の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各1通を保有する。

令和 年 月 日

甲 東京都港区六本木一丁目9番9号  
支出負担行為担当官  
原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 名

乙

(別記)

## 原子力規制委員会原子力規制庁物品売買契約心得

(適用)

第1条 本契約条項（特記事項を含む。）は物品の売買契約に適用する。

(権利義務の譲渡等)

第2条 乙は、本契約によって生じる権利の全部又は一部を甲の承諾を得ずに、第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会、資産の流動化に関する法律（平成10年法律第105号）第2条第3項に規定する特定目的会社又は中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の3に規定する金融機関に対して債権を譲渡する場合にあっては、この限りでない。

2 乙が本契約により行うこととされたすべての給付を完了する前に、前項ただし書に基づいて債権の譲渡を行い、甲に対して民法（明治29年法律第89号）第467条又は動産及び債権の譲渡の対抗要件に関する民法の特例等に関する法律（平成10年法律第104号。以下「債権譲渡特例法」という。）第4条第2項に規定する通知又は承諾の依頼を行った場合、甲は次の各号に掲げる事項を主張する権利を保留し又は次の各号に掲げる異議を留めるものとする。また、乙から債権を譲り受けた者（以下「譲受人」という。）が甲に対して債権譲渡特例法第4条第2項に規定する通知若しくは民法第467条又は債権譲渡特例法第4条第2項に規定する承諾の依頼を行った場合についても同様とする。

(1) 甲は、承諾の時に於いて本契約上乙に対して有する一切の抗弁について保留すること。

(2) 譲受人は、譲渡対象債権を前項ただし書に掲げる者以外への譲渡又はこれへの質権の設定その他債権の帰属並びに行使を害すべきことを行わないこと。

(3) 甲は、乙による債権譲渡後も、乙との協議のみにより、納地の変更、契約金額の変更その他契約内容の変更を行うことがあり、この場合、譲受人は異議を申し立てないものとし、当該契約の変更により、譲渡対象債権の内容に影響が及ぶ場合の対応については、もっぱら乙と譲受人の間の協議により決定されなければならないこと。

3 第1項ただし書に基づいて乙が第三者に債権の譲渡を行った場合においては、甲が行う弁済の効力は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第42条の2の規定に基づき、甲が同令第1条第3号に規定するセンター支出官に対して支出の決定の通知を行ったときに生ずるものとする。

(給付完了の通知)

第3条 乙は、物件全部の給付を終えたときは、その旨を直ちに甲に通知しなければならない。

(給付完了の検査の時期)

第4条 甲は、前条の通知を受けた日から10日以内にその給付物件の検査をし、合格した上で引渡しを受けるものとする。

(所有権移転の時期)

第5条 前条の引渡しを終った日をもって所有権移転の時期とする。

(かし担保責任)

第6条 甲は、給付物件の引渡しが終わった後でもかしがあることを発見したときは、乙に対して相当の期間を定めて、そのかしの補修をさせることができる。

2 前項によってかしの補修をさせることができる期間は、第4条の引渡しを受けてから1年とする。

3 乙が第1項の期日までにかしの補修をしないときは、甲は、乙の負担において第三者にかしの補修をさせることができる。

(対価の支払)

第7条 甲は、給付物件の引渡しを受けた後乙から適法な支払請求書を受理した日から30日(以下「約定期間」という。)以内に対価を支払わなければならない。

(遅延利息)

第8条 甲が前条の約定期間内に対価を支払わない場合には、遅延利息として約定期間満了の日の翌日から支払をする日までの日数に応じ、当該未払金額に対し財務大臣が決定する率を乗じて計算した金額を支払うものとする。

(違約金)

第9条 乙が天災その他不可抗力の原因によらないで、履行期限までに給付物件の引渡しを終わらないときは、甲は、違約金として延引日数1日につき契約金額の100分の1に相当する額を徴収することができる。

(契約の解除)

第10条 甲は、乙が次の各号の一に該当するときは、本契約の全部又は一部を解除することができる。

- (1) 乙が天災その他不可抗力の原因によらないで、履行期限までに物件の給付を完了しないか、又は履行期限までに物件の給付を完了する見込みがないと甲が認めたとき。
- (2) 乙が正当な事由により解約を申出たとき。
- (3) 本契約の履行に関し、乙又はその使用人等に不正の行為があったとき。
- (4) 前各号に定めるもののほか、乙が本契約条項に違反したとき。

(損害賠償)

第11条 甲は、かしの補修、違約金の徴収、契約の解除をしてもなお損害賠償の請求をすることができる。ただし、損害賠償を請求することができる期間は、第4条の引渡しを受けてから1か年とする。

(契約の公表)

第12条 乙は、本契約の名称、契約金額並びに乙の商号又は名称及び住所等が公表されることに同意するものとする。

(紛争の解決方法)

第13条 本契約の目的の一部、納期その他一切の事項については、甲と乙との協議により、何時でも変更することができるものとする。

2 前項のほか、本契約条項について疑義があるとき又は本契約条項に定めてない事項については、甲と乙との協議により決定するものとする。

## 特記事項

### 【特記事項1】

(談合等の不正行為による契約の解除)

第1条 甲は、次の各号のいずれかに該当したときは、契約を解除することができる。

- (1) 本契約に関し、乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為を行ったことにより、次のイからハまでのいずれかに該当することとなったとき
  - イ 独占禁止法第49条に規定する排除措置命令が確定したとき
  - ロ 独占禁止法第62条第1項に規定する課徴金納付命令が確定したとき
  - ハ 独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の課徴金納付命令を命じない旨の通知があったとき
- (2) 本契約に関し、乙の独占禁止法第89条第1項又は第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき
- (3) 本契約に関し、乙（法人の場合にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は第198条に規定する刑が確定したとき

(談合等の不正行為に係る通知文書の写しの提出)

第2条 乙は、前条第1号イからハまでのいずれかに該当することとなったときは、速やかに、次の各号の文書のいずれかの写しを甲に提出しなければならない。

- (1) 独占禁止法第61条第1項の排除措置命令書
- (2) 独占禁止法第62条第1項の課徴金納付命令書
- (3) 独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の課徴金納付命令を命じない旨の通知文書

(談合等の不正行為による損害の賠償)

第3条 乙が、本契約に関し、第1条の各号のいずれかに該当したときは、甲が本契約を解除するか否かにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の100分の10に相当する金額（その金額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額）を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

- 2 前項の規定は、本契約による履行が完了した後も適用するものとする。
- 3 第1項に規定する場合において、乙が事業者団体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に違約金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者は、連帯して支払わなければならない。
- 4 第1項の規定は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する損害賠償金の金額を超える場合において、甲がその超える分について乙に対し損害賠償金を請求することを妨げるものではない。
- 5 乙が、第1項の違約金及び前項の損害賠償金を甲が指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した金額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

## 【特記事項 2】

(暴力団関与の属性要件に基づく契約解除)

第4条 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- (1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(下請負契約等に関する契約解除)

第5条 乙は、本契約に関する下請負人等（下請負人（下請が数次にわたるときは、すべての下請負人を含む。）及び再委任者（再委任以降のすべての受任者を含む。）並びに自己、下請負人又は再委任者が当該契約に関連して第三者と何らかの個別契約を締結する場合の当該第三者をいう。以下同じ。）が解除対象者（前条に規定する要件に該当する者をいう。以下同じ。）であることが判明したときは、直ちに当該下請負人等との契約を解除し、又は下請負人等に対し解除対象者との契約を解除させるようにしなければならない。

- 2 甲は、乙が下請負人等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは下請負人等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該下請負人等との契約を解除せず、若しくは下請負人等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、本契約を解除することができる。

(損害賠償)

第6条 甲は、第4条又は前条第2項の規定により本契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。

- 2 乙は、甲が第4条又は前条第2項の規定により本契約を解除した場合において、甲に損害が生じたときは、その損害を賠償するものとする。
- 3 乙が、本契約に関し、前項の規定に該当したときは、甲が本契約を解除するか否かにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の100分の10に相当する金額（その金額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額）を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
- 4 前項の規定は、本契約による履行が完了した後も適用するものとする。
- 5 第2項に規定する場合において、乙が事業者団体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に違約金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者は、連帯して支払わなければならない。
- 6 第3項の規定は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する損害賠償金の金額を超える場合において、甲がその超える分について乙に対し損害賠償金を請求することを妨げるものではない。
- 7 乙が、第3項の違約金及び前項の損害賠償金を甲が指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した金額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

(不当介入に関する通報・報告)

第7条 乙は、本契約に関して、自ら又は下請負人等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係者等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は下請負人等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

※ 以下、仕様書を添付する。